

建設経済常任委員会会議録

- 1 日 時 令和7年10月8日(水)
午後1時24分～午後2時50分
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 委員長 千葉栄幸 副委員長 鈴木英信
委員 今野慎介 委員 笹森波
委員 板橋美保 委員 菅原和子
委員 山田龍太郎
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明のため 生活経済部長 小松政博
出席をした 商工観光課長 守正樹
者の職氏名 企画員兼
商工観光課長補佐兼 草野学
企業誘致係長
商工観光課主幹兼
観光振興係長 工藤旭子
- 6 事務局職員 主 事 長谷川和紀
- 7 付議事件
(1) 観光戦略プランについて
① 観光振興における取組内容について
② 観光振興における課題について

午後1時24分 開 会

○委員長（千葉栄幸） 出席委員は、定足数に達しておりますので、委員会条例第14条の規定により委員会は成立いたしました。

ただいまから、建設経済常任委員会を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の委員会次第書のとおりであります。

この際、諸般の報告をいたします。

委員会条例第19条の規定により、生活経済部長及び担当課長等の出席を求めておりますので、報告いたします。

次に、本日の会議に係る一切の資料を、お手元に配付しておりますので御了承願います。

これをもって諸般の報告を終わります。

それでは、付議事件の（1）観光戦略プランについてを議題といたします。

初めに、本日の進め方について、説明いたします。

まず、執行部より本日の説明要請事項について、全て御説明いただき、その後、委員各位より質疑をお受けする形で進めてまいりますので、よろしく願います。

休憩をして進めてまいります。暫時、休憩いたします。

午後1時25分 休 憩

*休憩中の要旨

執行部より、各項目について説明をなした。内容は以下のとおり。

(商工観光課)

本市の観光振興は、地理的特性や都市基盤を生かしつつ、新たな地域の魅力を育て、観光資源をつなぎ、魅力を発信していくことで、国内外から多くの観光客が来訪し、繰り返し訪れたくなる地域として選ばれることを目指している。観光入込数の成果指標について、令和12年は約200万人を目標値としているが、令和6年度は約160万人であり、令和4年度から着実に増加傾向にあると捉えている。

(1) 観光振興における取組内容について

名取市第六次長期総合計画の観光の振興に関する主要施策を基に説明をなした。

○地域特性を生かした観光の仕掛けづくり

本市の沿岸エリアにあるアカガイ、シラス等の食材資源や、イチゴ狩り、笹かま手焼き体験、SUP等の体験型コンテンツを、点ではなく線をつなぎ、周遊できるツアーとして「オトナの遠足ツアー」と「オルレ体験ツアー」を造成したほか、各2回実施したモニターツアーでは、定員を上回る応募があるなど好評を得ている。また、情報発信については、インスタグラム等による投稿が合計30万回以上再生されており、観光情報の発信につながったと考える。ブルーツーリズム推進支援事業については、マリンレジャーと海鮮バーベキューを組み合わせた体験型コンテンツにより、国内外からの誘客促進を図った。サーファーを対象としたSUPツーリズムのセミナー、SUPとバーベキューを組み合わせた体験型・滞在型コンテンツ、サイクルスポーツセンターにおける海鮮ナイトバーベキューの3本立てで実施し、合わせて約200名の方が参加され、概ね好評を得ている。また、ブルーツーリズム専用サイトは4,000回以上閲覧されている。

○観光資源の活用・造成

舟運事業については、平成30年から運行を開始しており、利用者数は令和5年の約2,300人から、令和6年は約2,900人と増加傾向である。サイクルツーリズム推進事業については、令和6年度はなとりサイクルラリー2024と称し、全10か所のスポットを巡る自転車イベントとして、各スポットに設置された二次元コードを読み込むことでスタンプを取得するスタンプラリーを実施した。市外のスポットは、亘理町の鳥の海温泉、岩沼市の金蛇水神社、仙台市のJRフルーツパーク仙台あらはまとせんだい農業園芸センター、塩竈市のマリンゲート塩釜の5か所に設置し、沿岸エリアを周遊いただく工夫をして約200名が参加した。内陸部については、中将藤原朝臣実方の墓のPRとして、令和6年度に放映された大河ドラマに合わせて「藤原朝臣実方を偲ぶ会」を開催した。小規模のイベントだったが30名の方が参加され、藤原朝臣実方の思いを共有することができた。サイクルスポーツセンターについ

では、使用料制という制限がある中で、指定管理者が自主事業という形で事業の推進に努めている。利用者については、令和5年度は約15万8,000人、令和6年度は約15万9,000人と約5%増加しており、使用料についても、令和5年度は約1億200万円、令和6年度は約1億600万円と約4%増加しており、一定の成果があったものと捉えている。

○観光誘客に向けたプロモーションの推進

観光パンフレットをリニューアルし、紙面の二次元コードを読み取ることで市内15か所の観光施設、観光スポットの動画を再生できる仕組みを取り入れており、現在5,000回以上再生されている。また、インバウンド向けに英語、中国語（繁体字、簡体字）、タイ語、韓国語の多言語版を約5,000部発行し、観光施設、観光スポットに設置した。

○観光客の受入体制の整備

令和6年度よりインバウンド受入環境整備事業を開始した。これは、アフターコロナで増加する外国人観光客に対応するため、受入環境の充実を図る市内事業者等に対して、50万円を上限に、対象経費の2分の1を補助する事業である。令和6年度は、メニューやホームページの多言語化、Wi-Fi整備、電子決済ツールを整備した事業者に対して、6件の交付を行った。

○広域観光の推進

名取・仙台沿岸部周遊キャンペーンとして、アクアイグニス仙台、かわまちてらす閑上、ゆりあげ港朝市メイプル館、日和山などを巡る謎解きイベントを実施し、611名が参加した。また、名取市、岩沼市、亘理町、山元町の2市2町で構成する名亘地場産業振興協議会等、広域観光の連携を推進している。

○総合的な観光振興の推進

名取市観光物産協会に管理運営という形で補助金を交付して総合的な観光振興を図る仕掛けづくりに取り組んでいる。協会は、観光誘客、交流人口の

拡大、特産品のPR、観光客や関係機関への広告宣伝等に取り組み、本市の観光を推進している。

(2) 観光振興における課題について

観光振興における課題を大きく分けると3つの課題が挙げられる。1つ目は、インバウンド誘客の課題である。国際空港がある利点を生かし切れていないこと、仙台や松島等の観光スポットと比べて本市の観光スポットは多言語化やキャッシュレス決済に対応している箇所が少なく、ハード、ソフト設備の両面においてインバウンドの受入体制が構築されていないといった課題がある。今後は、台湾桃園市との観光及び経済産業分野における交流促進協定の締結によるインバウンド誘客に取り組む。

2つ目は、本市での滞在時間が短いという課題である。仙台空港の利用者数は令和6年度で約350万人だが、そのうち観光客のほとんどが仙台や松島等の主要観光地へ移動してしまい、本市を素通りしてしまうといった課題がある。今後は、空港所在都市の利点を生かし、フライト前後の隙間時間を有効活用したツアーの造成に取り組む。

3つ目は、山手側への観光誘客という課題である。山手側にも熊野三社や雷神山古墳、飲食店などいろいろな観光コンテンツが存在するが、その魅力を生かし切れていないほか、交通アクセスが悪いという課題がある。今後は、山手側の魅力発信の強化と、オルレコースといった新たな観光コンテンツを造成し、市域全体の観光地化に取り組む。

<質疑応答>

問 イベントごとに実施しているアンケートの内容について、消費額や満足度以外に、市外県外といった居住地、滞在時間、宿泊の有無等は含まれているのか。

答 居住地については市内外の区分で捉えているが、滞在時間や輪りんの宿を除く宿泊の有無については把握していない。

問 滞在時間の短さが課題であるとの説明があったが、どの程度の滞在時間を短いと捉えているのか。

答 1泊2日や丸1日名取を楽しむ方は少なく、松島などへ向かう途中で立ち寄る方が多いという話は聞いている。ゆっくりと連泊して本市を観光する方は感覚として少ないものと捉えている。

問 イベントに対するアンケートだけでは観光客の見える化は厳しいのではないか。市外や県外のどの地域からの来訪が多いのか捉えているか。また、分析は行っているのか。

答 サイクルスポートセンターは、宿泊する際に住所を記入するため、情報は捉えている。市外の方がほとんどであり、仙台市の方が多いと聞いている。

問 イベントに対するアンケートだけでは観光振興の改善や施策につなげにくいと考えるがどうか。

答 アンケートを広く行うことも一案と考える。

問 イベントに参加する観光客以外にも本市を訪れる方は多数いると思われる。アンケート内容を拡大してホテル等に設置するという事は行っているか。

答 設置には至っていないが、アンケートの項目に市の観光に対する内容を盛り込むことは一案と考える。

問 サイクルスポートセンターで年1回アンケートを実施しているとのことだが、どのような意見があるのか。

答 屋外施設については、自転車の種類の拡充や故障への対応、カードの作成、多目的トイレの改善、子供向け自転車教室の開催要望といった意見があった。温泉施設については、サウナの設置や備品の改善、衛生面に関する意見、入浴料金の改定に対する反対意見など様々な意見があった。

問 その様々な意見を観光振興の改善や施策につなげているケースはあるのか。

答 取り入れられる内容は取り入れ、常に事業をバージョンアップしながら本市への誘客を増やすよう進めている。具体的な事例では、令和6年度に地域観光新発見事業としてなとりグルメラインモニターバスツアーを行い、市内外問わず80名の参加者からいただいた意見を基に商品化に向けて現在取り組んでいる。また、ブルーツーリズム推進支援事業の海鮮ナイトバーベキューについては、令和6年度は9月から10月にかけてサイクルス

スポーツセンターで開催したが、事業者やアンケートによる意見を踏まえ、令和7年度は8月から9月にかけてかわまちてらす閑上で開催したほか、せんだい海手線ループバスとの連携を強化したことで、今年目標値を上回る実績を上げることができた。

問 施設のバリアフリー化は進んでいるようだが、車椅子でも利用できる観光施設や外国人向けの多言語標識に対応した観光施設についての情報発信はどのように行っているのか。また、バリアフリーという観点から写真などを活用してインスタグラムやパンフレットでの発信に取り組んでいるか。

答 市ホームページなどでインバウンド向けの受入環境等は公開しているが、バリアフリーに特化した情報の発信には至っておらず、今後の課題と認識している。

問 観光客入込数の調査を22か所の地点で実施しているとのことだが、どのように人数を計上しているのか。

答 かわまちてらす閑上のようにレジスター等のデータで把握している箇所もあれば、おおよその人数を回答いただいている箇所もある。

問 名取に留まる魅力的なものがないということが一番痛いところである。難しいとは思いますが、新しい箱物を造るのではなく、本市独自の自然などを利用して留めるということについて、どのように考えているのか。

答 松島などの観光コンテンツと比べてどうしても見劣りする部分がある。例えばセリ掘り体験や笹かまぼこの手焼き体験、熊野三社などといった、名取でしかできないものや食で勝負していきたいと考えている。また、北釜地区のイチゴ農園ではパフェ作り体験といった人気の新規コンテンツもできており、まずはメインの目的地へ行く合間の時間に立ち寄り名取を楽しむ、知ってもらうことが大事だと考える。

問 観光物産協会のサイトやインスタグラム等の更新頻度が低いと感じる。広報上の戦略として目標値を設定し、発信力のある市民の力を借りるなどして、より頻繁に情報発信を行う考えは。

答 まだ力不足な面があると認識しているため、市民やインフルエンサー等の協力も得ながらバージョンアップできるよう努力したい。なお、協会との契約の中で年間の発信回数やフォロワー数の目標値は定めている。

問 やっていますという情報だけでは人気にならないので、内容を深めるといった工夫が必要ではないか。

答 今後検討したい。

問 インバウンド対策について、日本酒が飲める程度ではPRにならない。例えば蔵元と食事するぐらいのハイクオリティなサービスを作らないと本当の意味のインバウンド施策にならないと考える。そのような考えを拾い上げて戦略化するようなスキームはあるのか。

答 観光グルメコンテンツであるオトナの遠足ツアーなど蔵元の話聞けるツアーがあり、非常に好評を得ていることから需要があると認識している。今後商品化できるよう取り組みたい。

問 熊野那智神社創建 1,300 年のイベントや大河ドラマの影響で盛り上げた中将藤原朝臣実方の墓について、そのときは盛り上がりながらも、次につながらず止まってしまったように感じる。イベントの翌年以降もそのもの自体や地域をPRしていくことについて、どのように考えているか。

答 約 200 万人の観光入込数を伸ばすことを目標に掲げているため、市内全域の観光の活性化ができるよう、可能な限り常に発信していこうと考えている。

問 名取百選について、時間は経過しているがより伝えていきたいところをクローズアップし、点のものをオルレコースで線としてつないでいくということも大切かと思うがどうか。

答 そういった地域の方々の声を吸い上げながらコース設定を行いたいと考えている。

問 四季を通じた本市のストロングポイントをどのように考えているのか。

答 タケノコやセリ、アカガイにシラスなど四季折々の旬のものがああり、その時期に応じて事業を展開しているが、大きなまつりのある春、夏、秋に比べると冬は厳しいため、内部で検討を進めている。

問 リピーターが訪れた回数をデータにして見える化することが大事だと考える。観光全体のデータを数値として一覧にした見える化は行っているのか。

答 各事業のアンケートでは再参加の意向を確認しており、利点はあると認識しているが、事業内容によってアンケートの中身が異なるため、全てを集

約することは難しい面があると思う。ただ、そういった部分があってもいいのかなと思う。

問 なとりコインを、新潟県佐渡市のだっちゃんコインのように観光客へ配付して再訪問を促す考えは。

答 名取市デジタル地域通貨利用促進委員会においてそのような案も検討されたが、なとりコインには有効期限があること、ほかに現地決済型ふるさと納税があるということから導入に至っていない。

問 松山空港では愛媛県のマスコットキャラクターが設置されており、宇部空港では山口県宇部市の特産品であるバラが植えられている。仙台空港利用者の印象に残るよう、本市でも空港にマスコットキャラクターカーナ君の顔出しパネルを設置したり、時期によってほかのマスコットキャラクターを押し出すことを考えてみてはどうか。

答 現在、仙台空港では観光パンフレットの設置等に留まっているため何かしら考えたい。

問 名取市独自の観光戦略プランを策定する考えはあるのか。

答 現在は名取市第六次長期総合計画をメインの指針とし、県観光戦略プランも踏まえながら対応している。観光のトレンドは目まぐるしく変わるため、柔軟に対応できるよう、現状では個別の計画策定までは考えていない。

問 観光振興は、組織の横断的な連携が必要であると思うがどうか。

答 観光の部分は目まぐるしく変わることから、計画立てではない臨機応変な対応を行ってきており、必要に応じてワーキンググループを組織するなど横断的に対応している。

問 仙台空港から帰る観光客は空港周辺で時間調整しなければいけないことから、いかに滞留させるかということは一つの考えだと思う。ツアー会社とそういった意見交換をしてはどうか。

答 今後、フライト前後の時間を有効活用したツアーの造成に取り組むこととしているため、ツアー業者とも相談しながらうまく滞留できるようにしたい。

問 イオンモール名取における海外観光客の動向は把握しているのか。

答 イオンモール名取と話しており、台湾の方が非常に多いと聞いている。具体的な取組はこれからだが、インバウンド向けのツアーをつくれればいいの

かなと思っている。

午後2時50分 再開

○委員長（千葉栄幸） 再開いたします。

以上で本日の付議事件は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

大変お疲れ様でした。

午後2時50分 散会

令和7年10月8日

建設経済常任委員会

委員長 千葉 栄幸